

取扱説明書

右記警告サインの意味をご理解の上、取扱説明書をお読みください。

-  **警告** 指示に従わない場合は死亡、または重度の障害を負う可能性があります。
-  **注意** 指示に従わない場合は軽傷、または他の財物の損傷を引き起こす可能性があります。



警告

■使用上の注意

- ④ 点火時および使用中は、火口を人体に向けてたり中をのぞきこんだりしないでください。
- ④ 使用中および使用直後は火口、火口付近が熱くなっていますので可燃物を近づけたり手を触れたりしないでください。
- ④ 火のついたまま容器(ボンベ)を取り外したり投げたりしないでください。やけど、火災の危険があります。
- ④ 容器(ボンベ)は正しく取り付けてください。容器(ボンベ)の取り付けが不完全だとガス漏れ事故の原因となります。
- ④ 室内で使用する場合は、換気に十分注意してください。換気が不十分だと、一酸化炭素中毒死や、酸欠による窒息死のおそれがあります。
- ④ 炭の火起しにご使用の際は必ず手に持って使用してください。他の物に固定したり、置いたまま使用すると容器(ボンベ)が過熱し非常に危険です。また本体が加熱され破損するおそれがあります。火が起きたらすぐに本体を消火し火元から離して置いてください。

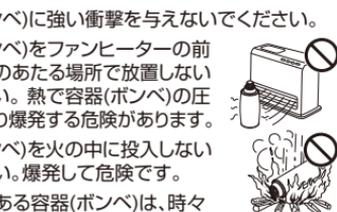
■使用容器(ボンベ)の取扱上の注意

- ④ 容器(ボンベ)はSOTO製品専用または新富士バーナー製品専用の容器(カセットガス式)を必ずご使用ください。

- ④ 容器(ボンベ)に表記されている注意事項をよく読んでからご使用ください。
- ④ 容器(ボンベ)は火気や直射日光(室内や車内の窓際など)を避け、キャップをして風通しがよく湿気の少ない40℃以下の場所に保管してください。



- ④ 容器(ボンベ)に強い衝撃を与えないでください。
- ④ 容器(ボンベ)をファンヒーターの前など熱気のある場所で放置しないでください。熱で容器(ボンベ)の圧力が上がり爆発する危険があります。
- ④ 容器(ボンベ)を火の中に投入しないでください。爆発して危険です。
- ④ 保管してある容器(ボンベ)は、時々点検してください。錆が発生している場合はできるだけ早くご使用ください。使用中は時々容器(ボンベ)に異常がないか確認してください。



■使用済み容器(ボンベ)の処理に関する注意

- ④ 容器(ボンベ)を振ってサラサラ音する場合は、まだガスが残っています。そのまま温度の高い場所に放置したり、火の中に投入すると爆発する危険があります。
- ④ 容器(ボンベ)は完全に使いきってから他のゴミと別けて処分してください。(各自治体の処理方法に従って処分してください。)



警告 空気孔を閉じた状態での逆さ使用厳禁

空気孔を閉じた状態で逆さ使用をしたりボンベを傾けた状態で使用続けると、**生ガス**(気化していない白い霧状のガス)が出て赤い炎が大きく燃え上がることがあります。その際は直立状態にして空気孔を全開にし、ハンドルを閉じて消火してください。

そのまま燃焼を続けると樹脂製バルブカバー内に生ガスが流れ込み引火し、やけど、火災のおそれがあり、大変危険です。



生ガスに注意

点火は**生ガス**(気化していない白い霧状のガス)が出ないように容器(ボンベ)を水平な場所に置き、直立状態で行ってください。本体を傾けた状態で点火すると**生ガス**が大きく燃え上がり危険です。また使い始めの容器(ボンベ)を使用する時や35℃以上の高温時には**生ガス**が出やすくなりますのでご注意ください。



傾けて点火しない!



生ガスに点火すると赤い炎が大きく燃え上がり危険です。

本体の外れに注意!

燃焼中に、本体を激しく振ったり、落下させたり、炭の火起しの際に火口先端で炭を動かしたりしないでください。ボンベホルダーが回転し、本体が外れるおそれがあり、大変危険です。



激しく振らない!

火口で炭に触れない!



注意

■その他、使用上の注意

- ④ 風の強い時は使用しないでください。

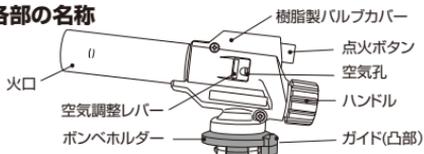
- ④ 換気の十分な場所で燃えやすい物や熱に弱い物から十分に離れて使用してください。
- ④ 火災は予期しないことから発生することがあります。ご使用の際は、火の元に十分注意してください。
- ④ ハンドルはご使用の時以外は閉じておいてください。
- ④ お子様には使用させないでください。また、お子様の手の届かない場所に保管してください。

絵表示について次のような意味があります。



本製品を安全に正しくお使いいただくために、**ご使用前にこの取扱説明書を必ずよくお読みください。**また、この取扱説明書を大切に保管してください。

■各部の名称



■使用方法

【1】容器(ボンベ)の取り付け

※**周囲に火気がないことを確認してください。**

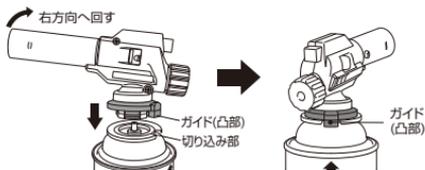
1. ハンドルをOFFの方向へ回し、完全に閉じていることを確認します。この時ハンドルを必要以上にきつく締めないでください。

2. ボンベホルダーのガイド(凸部)が所定の位置(左側に止まるまで回した位置)(図1)にあることを確認します。

※**ガイド(凸部)が所定の位置にないと容器(ボンベ)の取り付けができません。**



図1



3. 容器(ボンベ)の切り込み部にガイド(凸部)を合わせ、本体を下へ押し付けながら右方向に止まるまで約60度回します。

4. ガイド(凸部)が本体の真後ろよりやや右側にあることを確認して、取り付け完了です。

【2】点火

1. 容器(ボンベ)を水平な場所に置き、直立状態にします。
2. ハンドルをONの方向に回して(約90度回すとガスが出ます)ガスを出して、点火ボタンを“カチッ”というまで押して点火し、青色の炎が出ることを確認します。
3. 点火しない場合は、点火ボタンを繰り返し押します。

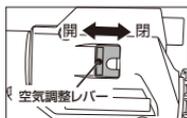
※**ガスを出すぎると点火しにくいので、ガスの量を調整してください。**

※**生ガス(酸化していない白い霧状のガス)が出たときは点火せず、一度ハンドルをOFFの方向に回し、再度ハンドルをONの方向に回して生ガスが出ないことを確認してから点火してください。**

【3】火力調整、空気調整

1. 火力の調整は炎を確認しながらハンドルで調整します。

2. 空気調整レバーをスライドさせることにより空気の流入量を調整し、炎の温度を変えられます。使用目的に合わせて調整できます。



- 空気調整レバーの位置が火口側にある時が空気孔が全開の状態です。青い高温の集中炎になります。
- 空気調整レバーの位置が点火ボタン側にある時が空気孔が全閉の状態です。ソフトな炎になります。
- 空気孔を閉じた状態で、点火ボタンを押すと、自動的に空気孔が開く構造になっています。

※**使用中、予期せず空気孔が閉じることがあるので注意してください。**

【4】消火

ハンドルをOFFの方向へ止まるまで回し閉じます。完全に消火したことを確認して作業を終了します。容器(ボンベ)を取り付け時と逆の手順で取り外します。

【5】本体の保管

長期間使用しない場合は、本体から容器(ボンベ)を必ず取り外して、湿気のない場所で箱または袋に入れて保管してください。

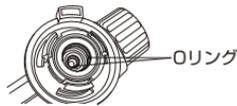
※**そのまま放置すると虫や、ほこり等がガス通路に入り込み、異常燃焼や点火不良の原因になります。**

■日常の点検、手入れ

- 日常の点検、手入れは必ず行ってください。
- 点検、手入れは必ず容器(ボンベ)を取り外して火口付近が完全に冷めてから行ってください。

● 点検方法

1. バルブ内にOリング(リング状の黒いゴム)が2つ入っているか確認する。
2. 点火ボタンを押したとき、火口の中で青い火花が飛びか確認する。
3. 本体に汚れが目立つ場合には、乾燥した布等で拭き取ってください。



- 故障、破損と思われるときは使用しないでください。
- 不完全な修理は危険です。万一、具合が悪くなって処置に困るような場合は、お買い求めになった販売店または新富士バーナー株式会社お客様係(フリーダイヤル)0120-75-5000までご相談ください。

本体が破損するおそれのある使い方

火口を真下に向けての連続使用

火口を真下に向けて3分以上の連続使用をしないでください。火口からの炎や熱気が本体にかかり、破損するおそれがあります。

対象物に近づけすぎでの使用

火口を対象物に近づけすぎで使用すると輻射熱により本体が破損するおそれがあります。

火口を水につけ急冷する

燃焼後、火口を水につけて急冷すると、高温の水蒸気により点火装置が破損するおそれがあります。



取扱説明書

使用前に
取扱説明書を
必ずお読みください。